

## 金目まるごと博物館推進委員会が発足しました。

平成19年6月30日(土)、金目公民館 会議室で開催されたエコ・ミュージアム 金目まるごと博物館推進準備委員会において、新たに、「エコ・ミュージアム金目まるごと博物館推進委員会」が発足しました。

今後は、金目地域の方々が主役となって、この事業を展開していくこととなります。是非、ご支援とご協力をお願いいたします。

名称 エコ・ミュージアム 金目まるごと博物館推進委員会

役員  
委員長 米村 康信 副委員長 柳川 勝正  
会計 平井 保二郎 監査 渋谷 精一

委員 黒部 修次 中村 正賢 見留 壽一 柳川 三郎 柳川 久子  
石丸 熙 杉山 栄作 岩男 良助 大村 満裕 秋山 博  
鷺尾 昭夫 佐藤美智子 野中 武夫 (順不同 敬称略)

以上 よろしくお願いいたします。

### 米村委員長のコメント

金目地域には先人から受け継いだ素晴らしい金目の歴史、文化、自然等がたくさん残っています。

これらの素晴らしい遺産と自然環境を再認識して、これらを保存し、そしてこれらを生かした事業活動を展開していきたい。



金目地域から見る富士山

富士ビュースポット

# 南金目台地 田子嶺

スポット案内

富士山の四季変化・秋10月「天高く」



真田台地から遠望すると、大磯丘陵東端の稜線が鮮やかに見えるが、中央辺りに家並もなく山林もなく緩やかに円を描いている畑地がある。「田子嶺」一帯である。

観音橋から寂静寺西側の血噎坂チムセザカを上がり、変則五叉路の左急坂を上がれば、広々とした畑地に出る、畦道のどこに立っても箱根連山の高みに富士山を仰ぎ見ることができる。

地名の由来

大字南金目 字<田子嶺タコミネ>

地名の田子嶺（たこみね）は、タコ（田子）とミネ（嶺）との語を重ねた語構成地名。タコの読み（字音）を表記した場合、田子、多古、多胡、蛸の漢字が当てられ、崖などの「食い違った地形、段差のある地形」をいった。またミネ（嶺、峰、峯）は山頂。山陵。尾根筋などの「物の高くなっている部分」をいう。隣接する字「田子窪」や字「膳棚」が「階段状傾斜地にある狭い場所の耕地」を示すことから、低地である田子窪や膳棚の階段状傾斜地のさらに上の高くなっている所の台地を字「田子嶺」と呼んだのだろうか。



金目地区は総じて台地に畑、低地に田、その狭間に集落という農村形態が近年まで定着していた。

田子嶺(タコミネ)は頂上付近で血噓坂(チムセザカ)や原境(ハラザカイ)と接し、北から東にかけて急傾斜を下りながら幾つかの字(アザ)とともに「ハタチ」を形成している。秦野市、伊勢原市、平塚市等の市街地、遠く江ノ島や三浦半島や横浜ランドマークを望む景勝地でもある。

## 近隣の文化遺産

### 天台宗・金龍山寂静寺{大光院} 本尊は三尊弥陀(サンゾンミダ)

開基は貞観六年(864)慈覚大師(最後の遣唐使)。血噓坂(チムセザカ)の東側に対面し、その坂下に寂静寺がある。文字通り静かなたたずまいで、参道の左右に墓地、石段上の本堂正面に銀杏の古木が1本、その先にも墓地が広がっている。借景の竹林が印象深い。

メモ：県立平塚盲学校創始者・秋山博墓碑。解説板「金目の鍼医さん/篤志の人物」。3月の春分の日には、秋山博墓前祭が行われる。



金目地区には、北から標高 40mほどの真田台地と北金目台地、金目川の南に大磯丘陵の東端部に当たる標高 50 m前後の南金目台地と片岡台地がある。この地形から計 271 の地名には、小高い所を示す山・台・塚などを含む地名が 37、対して低いところを指す窪・久保、低湿地の谷・谷戸などの文字のある地名が 31 と多い。したがって大小の坂も無数で、代表的な坂に真田の鳥鳴坂（カラスナキザカ）、南金目の血噓坂（チムセザカ）、片岡の宮坂（ミヤサカ）などがある。



JA湘南旧金目支所跡地

『ひろ場』の名称(愛称)を募集します

平塚市南金目901番地、JA湘南旧金目支所跡地(2,130㎡)を平塚市が借りうけて、地域のコミュニティ広場として整備しています。整備は10月下旬に完成の予定です。その広場の名称(愛称)を募集します。採用された方には粗品を進呈いたします。

**応募先** 〒259-1201 平塚市南金目966 金目公民館 名称応募係

**応募方法** ハガキに【名称】【利用方法】【氏名】【住所】【電話番号】を明記して応募ください。なお、金目公民館には専用の応募用紙も用意しています。

**しめきり** 平成19年10月31日(水) 必着

**発表** 平成19年11月11日(日) 11時から

「新装農協跡地 完成祝賀会(収穫祭)」会場で発表します。